

コレクション展 2017-1  
 コレクション・ハイライト  
 + 特集展示「実験的映像」「シルクスクリーン、いろいろ」  
 2017年3月18日(土)～5月7日(日)

このたび、当館のコレクションを紹介する展覧会として、コレクション展 2017-1 を開催します。本展は、「コレクション・ハイライト」と題した前半部分と、後半の特集展示「実験的映像」「シルクスクリーン、いろいろ」により構成されます。

◎コレクション・ハイライト

「現代美術」という用語を「近代美術」との対比において使用し、「第二次世界大戦後の美術」と捉えるならば、すでに 70 年以上経った今、私たちはその流れを歴史として振り返ることができるほどに、時間的な距離を獲得しているといえるでしょう。ここでは所蔵作品より、1900 年代前半に生まれ、主にアメリカを拠点に活動し、20 世紀のアメリカ現代美術の潮流を牽引した作家たちの表現を紹介します。

【出品作家】 イサム・ノグチ、ウィレム・デ・クーニング、ロバート・ラウシェンバーグ、アンディ・ウォーホル、フランク・ステラ、ナムジュン・パイク ほか

◎特集 1 「実験的映像」

1960 年代後半に家庭用のビデオカメラが発売されると、映像機材に興味を抱いた作家たちは、これによってもたらされ得る作品としての映像の可能性を探り始めました。特集 1 「実験的映像」では、現代美術の一ジャンルとしてすでに市民権を得た「映像」に焦点を当て、現代美術の文脈における映像作品の黎明期から現在までを概観します。

【出品作家】 ブルース・ナウマン、松本俊夫、山口勝弘、かわなかのぶひろ、山本圭吾、アピチャップン・ウィーラセタクン ほか

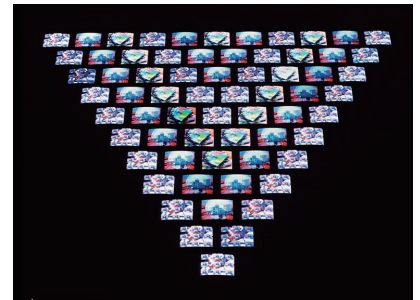
◎特集 2 「シルクスクリーン、いろいろ」

版画技法の一つである「シルクスクリーン」は、印刷対象の素材を選ぶことなく、曲面にも印刷でき、さらに版の耐久性も高いことから、1920 年代より商業的に使用されていましたが、50 年代後半頃からはアンディ・ウォーホルらポップアートの作家たちが積極的にこの技法を用いて制作しました。ここでは、国内外の作家によるシルクスクリーン作品を紹介します。

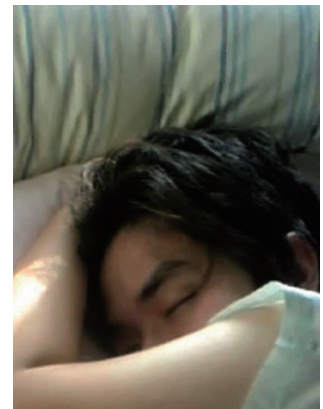
【出品作家】 殿敷侃、金昌烈、横尾忠則、篠原有司男、リチャード・ハミルトン、マルセル・ブロータース ほか

開催概要

【会期】 2017年3月18日(土)～5月7日(日)  
 【開館時間】 10:00-17:00 ※入場は 16:30 まで  
 【休館日】 月曜日(3月20日を除く)、3月21日(火)  
 【観覧料】 一般 370(280)円、大学生 270(210)円、  
 高校生・65歳以上 170(130)円、中学生以下無料  
 ※( )内は 30人以上の団体料金  
 ※5月5日(こどもの日)は高校生無料



ナムジュン・パイク  
 《ヒロシマ・マトリックス》1988



アピチャップン・ウィーラセタクン  
 《Teem》2007  
 © Apichatpong Weerasethakul  
 "Teem Nov 21" 2008



篠原有司男  
 《ピストル・オン・エアメール》1964



吉村益信  
 《Cut Sea A》1973